

※本研修は令和6年度11月に実施した施設内研修用の人権研修と同じ内容です。

R7年度は、個人のお申込み対象です！

令和7年度 人権感覚を 豊かにする ための研修① (職業倫理)



個人単位

- ☑ 期間中いつでも視聴可能
- ☑ (事業所内) 何人でも何度でも視聴できる

コロナ禍を経て、今、物価高騰や世界各地での紛争・戦争のため、市民の生活にも大きな影響を及ぼしています。

さまざまな困難な状況の中で『希望』をもつことがどれだけ大切な。

一人ひとりが困っている人を目の当たりにしたとき、何が出来るのか。

「あたりまえの日常を考える」「平和を願う心」は福祉の現場においても、

大変重要な実践の基盤をなすものだと考えます。そこで、ウクライナからの避難者を支え、能登半島地震に際してもキッチンカーでの活動を通じて被災支援・交流を続けている実践から、平和や多文化共生、たすけあいの輪、人としてどう寄り添えるのかについて、ウクライナへの軍事侵攻から3年が経過した、いま、あらためて考える機会とします。

#平和 #たすけあい #つながり #災害支援 #多文化共生 #外国人雇用 #社会貢献

ウクライナと日本をつなぐ 「たすけあいの輪」

～希望を持ち続けるために～



株式会社 Faina

COO カテリーナ・ヤボルスカ氏 & CEO 菊地 崇氏

講師

カテリーナ・ヤボルスカ氏はウクライナ ハルキウ出身。東京出身の菊地崇氏と結婚後、現在は滋賀県彦根市に在住。2022年ウクライナへのロシアの軍事侵攻によりカテリーナ氏の母と祖母を日本に避難させ、母と他避難者と働ける母国料理のキッチンカーを開始。2023年彦根城下町にて関西初のウクライナ料理店Fainaを展開し始める。2024年1月能登半島地震の被災地、石川県珠洲市にキッチンカーで出向き、被災者にボルシチを振る舞う。ウクライナフェスティバルを開催しウクライナの文化を紹介するなどお二人の活動は、NHKをはじめさまざまなメディアで紹介されている。 <https://www.faina.tokyo/>

研修概要

配信期間 7月11日(金)11:00～8月29日(金)16:00
【50日間】

開催方法 動画配信型オンデマンド研修 (約50分)

※この研修は、2024年9月に収録された講師2人に対するインタビュー形式の動画です。途中、英語の部分がありますが、その場で通訳し、お二人の思いをそのまま配信しております。

◎受講が決定しましたら、視聴期間1週間前をめどに視聴用にかかるID・パスワード等をメールにてご連絡します。

対象 福祉施設(全分野)の職員でテーマに関心のある方

※個人単位でお申し込みください

◎インターネット等の通信料、受講にかかる費用は受講者の負担になります。

受講料 2,000円/1名

◎動画視聴にかかるID・パスワード、研修資料の複製や拡散等の二次使用、研修内容の録画・撮影は禁止しております。
(個人単位の申込のため施設内での視聴ID・パスワード等の共有はできません)

申込締切 令和7年6月16日(月)まで

申込締切後1週間以内に受講決定のご案内をいたします。

◎本オンデマンド研修は、LMSの機能を有していないため、受講証明はできません。

◎動画視聴後は、アンケートにご協力をお願いいたします。

【お問い合わせ・お申込み】

(福)大阪府社会福祉協議会 大阪福祉人材支援センター 研修グループ

TEL:06-6762-9035 <http://www.osakafusyakyu.or.jp/kensyu-c/>



令和6年に施設内研修用として実施した本テーマ！アンケートの声から、令和7年度は個人単位でもお申込みいただけるよう再配信いたします。動画配信による研修ですので、ぜひ、この機会にご受講ください。

令和6年度受講者の実際の声(一部抜粋)

- ・ご家族が突然に平和な生活を奪われ、離れて生活することを余儀なくされている中でも、今生活している日本の中での災害等で被災された方に向けて支援を行なっておられるのはとても感銘を受けました。
- ・お二人の話は、とても胸に刺さった。
- ・ニュースなどで目にして心を痛めていますが、何かできているわけではないので、このような研修で活動を知り、どこかで支援ができる機会があればいいと思いました。
- ・国内だけでなくもっと視野を広くすると、争いが続いている地域や災害にみまわれている地域があり、自ら知ろうとしたり、教えてもらわないと簡単に忘れてしまうのだなと感じました。目の前の人を大切にすることが助け合うこと、知っていくこと、のはじまりで希望の種になるのだと思いました。
- ・こういう活動を自ら行っているという行動力から学ぶことができました。思考の多様化にも役立つと思います。
- ・言葉が通じない方へどう思いを伝えるか、他機関との連携も必須になるとも感じた。
- ・困っている人を助けるという点において、一人ひとりの努力の積み重ねということ、自分の体と心のメンテナンスの大切さも理解できました。
- ・声に出して言葉で伝えていくことや1人でできることは些細な事だが、積み重ねが大きな力となるとおっしゃっていて、保育現場でも同じだと感じた。
- ・一人ひとり、置かれている環境は違うけれど、他人への思いやり、自分自身への思いやりを持って日々を送ろうという気持ちは大切だと再認識しました。
- ・ご自身も大変な中、能登へ支援に行くことがとてもすごいことだと思いました。
- ・今回のような人権研修はとても理解しやすく、自分も変わってみようと思えるきっかけを頂けたのでとても良かったです。
- ・実際に面と向かって、今自分にできることを行動していくことで、お互いにやさしさや温かさを感じることができるところが「福祉」と通じると感じました。